

経済日誌 (1.1~1.31)

国内外

1.7◇出国税、徴収スタート

日本からの出国者に1人1,000円を課す「国際観光旅客税(出国税)」の徴収が始まった。国税としては1992年の地価税以来、27年ぶりの新税。2019年度で約500億円と見込まれる税収は、訪日客の受け入れ態勢の整備や、日本の魅力に関する情報提供などに充てられる。

1.9◇太陽光買い取り、2割減

経済産業省は、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度(FIT)で、2019年度の事業用太陽光発電の買い取り価格を1キロワット時当たり14円とする方針を示した。2018年度の18円から2割以上の引き下げとなり、減少率としては制度開始後で最大となる。

1.16◇ビール類出荷、過去最低

ビール大手5社が発表したビール類(ビール、発泡酒、第3のビール)の2018年課税出荷量は、前年比2.5%減の3億9,390万ケース(1ケースは大瓶20本換算)で、14年連続で減少し過去最低を更新した。飲料店向けビールの値上げや、嗜好の多様化、節約志向が影響した。

1.18◇保険過少給付、2,015万人分564億円

「毎月勤労統計」の不適切調査問題で厚生労働省は、この統計を基に算出する雇用保険の失業給付や労災保険などの過少支給の対象者は延べ2,015万人・30万事業所で、総額は約564億円に上るとした。11日の公表分を修正したもので、不足分は対象者に追加支給する。

県内

1.7◇eスポーツ振興、連合設立へ

サーバー管理などを手掛けるエスツー(秋田市)は、複数のプレイヤーが対戦するコンピュータゲーム「eスポーツ」の振興を目的に「秋田県eスポーツ連合」を2月に設立すると発表した。4月にはプロチームを立ち上げる。スポンサー企業を募り、eスポーツの普及を狙う。

1.10◇新スタジアム整備費100億円規模

サッカーJ3・ブラウブリッツ秋田のJ2昇格条件となる新スタジアムの整備構想で、「新スタジアム整備構想策定協議会」の専門委員会は、整備費が約100億円規模になると試算した。28日の同委員会の最終会合では、秋田市内3か所の候補地を1か所に絞るには至らなかった。

1.11◇フィジー代表、秋田市で事前合宿

今年9月に開幕するラグビーワールドカップ(W杯)日本大会に出場する強豪・フィジー代表が、秋田市内で事前合宿を行うことが決まった。事前合宿は大会直前の9月7日~12日に行われ、選手とスタッフ約50人が参加する予定。合宿中に市民との交流行事も計画されている。

1.18◇泉外旭川駅、新設が認可

JR東日本は、JR奥羽本線の秋田駅-土崎駅間に整備する「泉外旭川駅(仮称)」が東北運輸局から認可されたと発表した。今年7月に着工し、2021年3月に開業する予定。概算事業費は約20億5,000万円で、全額を秋田市が負担する。市は1日当たり2,118人の利用を見込んでいる。